

## 助成年度：平成 16 年度

[所属] 東京大学大学院農学生命科学研究科

[役職] 教授

[氏名] 鷲谷いづみ (他計 11 名)

[課題]

### 持続可能性を築く『市民・研究者協働による生物多様性 モニタリング』の研究

[内容]

持続可能な社会を築く上で意義の大きい「自然再生」を含む生態系管理は、市民・行政・研究者の協働によって進められる必要がある。また生態系という複雑で挙動の予測が困難な対象を取り扱うため、順応的管理の手法で進めることが求められる。さらに、順応的管理を有効に進めるためには、管理に参加する主体間での情報の共有、それにもとづく建設的で具体的な十分な議論を踏まえた合意形成、さらに、研究者にとっても未知の部分の少なくない対象への理解を深めるための「学習」プロセスが重要である。すなわち、順応的管理とは、多様な主体が「為すことによって共に学ぶ」実践であるともいえる。本研究プロジェクトでは、NPO 法人アサザ基金、市民調査をはじめとし全国の自然保護活動全般にわたって多くの経験を蓄積している日本自然保護協会、保全生態学を中心とする自然科学、および環境倫理・社会学の研究者の協働により、自然再生事業における生物多様性モニタリングの理念、体制、内容、プログラムなどの実践的研究を行った。このような体制により、総合的研究における市民と研究者の協働・連携のあり方自体を順応的に検討しながら、生物多様性モニタリングの理念とプログラム、参加する主体間での情報共有システム、モニタリング成果や得られた情報の多様な発信や普及、すなわち、情報発信のシステムの開発・実践の各課題における研究成果をおさめ、市民・研究者協働による生物多様性モニタリングの可能性を提示した。